

対米輸出認定要綱を参考とした管轄と畜場牛解体工程の評価

○橋本由絹、山崎省吾

長崎県諫早食肉衛検国見支所

【はじめに】対米輸出認定要綱（認定要綱）を参考とし、当該要綱の枝肉拭取りによる大腸菌検査に加え、従来法である一般生菌数、大腸菌群数で比較評価し、過去5年間の結果と比較した。さらに食肉の病原微生物削減達成規格の志賀毒素産生大腸菌（STEC）およびサルモネラについて、盲腸便における保有率を調査した。

【材料および方法】牛9頭の枝肉3カ所（胸部、ともばら、臀部）を拭取り採取した。大腸菌数の算出はMPN3管法、一般生菌数および大腸菌群数は混積培養法により実施した。また、STECおよびサルモネラ調査では盲腸便53検体を、前増菌および選択増菌培養後、分離培養したコロニー性状を確認し、STECおよびサルモネラの有無を推定した。また、前増菌培養液を用いて、STECでは *stx1*、*stx2*、サルモネラでは *invA* を標的としたPCRスクリーニングを行った。

【成績】牛枝肉では大腸菌数が臀部 $<0.10 \log \text{MPN}/\text{cm}^2$ 、ともばら $0.35 \log \text{MPN}/\text{cm}^2$ 、胸部 $<0.10 \log \text{MPN}/\text{cm}^2$ となった。一般生菌数の平均値は臀部 $2.02 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ 、ともばら $3.19 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ 、胸部 $3.07 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ 、大腸菌群数は臀部 $0.37 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ 、ともばら $1.86 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ 、胸部 $1.73 \log \text{cfu}/\text{cm}^2$ となった。また、過去5年間の結果を比較したところ、一般生菌数は平成29年度を除いて減少傾向にあり、本調査が最も少なかった。大腸菌群数は、平成28年度以降は低い菌数を維持していた。また、盲腸便中のSTECはPCRスクリーニング陽性率18.9%となったが、STEC菌株は検出されなかった。いっぽう、サルモネラはすべてPCRスクリーニング陰性であった。

【考察】認定要綱における切除法による大腸菌の評価基準を参考にすると、拭取りで得られた結果は基準を満たしていると推定されたことから、今年度の数値を基準として来年度以降も調査していく必要があると考えられる。STECはPCRスクリーニングで陽性が確認されたことから、危害要因の一つとして検証する上で、継続して調査を続けたいと考える。本調査では、これまで拭取りを行っていなかったともばらの汚染度が高いことなど、新たなデータを得ることが出来た。今後も検査方法を改善しつつ衛生指導に有用な資料を提供したい。